

時間割コード	KB5201	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	健康の科学				
担当教員（ローマ字表記）	大島 聖美				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

他者と自己に出会うコミュニケーション

授業の概要/Course Overview

この授業では、他の受講生とのグループワークを通して、自分と他者を理解する。具体的には、自分と他者の違いやコミュニケーションの難しさを体験した上で、他者の視点に立ち、問題の解決に向けた話し合いを体験する。毎回の授業は体験をもとに心理学的な背景について解説する。

キーワード/Keyword(s)

コミュニケーション、自己理解、他者理解

到達目標/Learning Objectives

自分と他者を理解し、他者との円滑なコミュニケーションの基礎を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：オリエンテーション

第2回：第一印象

【授業外学習】授業で配布される資料を参考に、自分が第一印象で重視している点は何かを考える。

第3回：異なる価値観

【授業外学習】授業で配布される資料を参考に、自分の価値観について考える。

第4回：コミュニケーションとは

【授業外学習】授業で配布される資料を参考に、自分のコミュニケーションの仕方について考える。

第5回：話す、聞く

【授業外学習】授業で配布される資料を参考に、自分の話し方、聞き方について考える。

第6回：他者を理解する

【授業外学習】授業で配布される資料を参考に、自分の他者理解の傾向について考える。

第7回：葛藤との付き合い方

【授業外学習】授業で配布される資料を参考に、自分の葛藤との付き合い方について考える。

第8回：まとめ

【授業外学習】これまでの授業の資料を確認し、自分の日常にどのように生かせそうかを考察する。

【アクティブ・ラーニング】

各回の授業では、授業で行ったグループワークで感じたことについてミニレポートを作成・提出する。

履修上の注意/Notes

受講者はグループワークに積極的に参加し、他の受講生に迷惑をかけないために遅刻しないことが求められる。

情報端末の活用

毎回の授業の終わりにアンケート（ミニレポート）を実施する予定のため、PC,スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：コミュニケーションの基本的な知識と考え方を十分に修得し、自己理解を十分に深めている。

A：コミュニケーションの基本的な知識と考え方を修得し、自己理解を深めている。

B:コミュニケーションの基本的な知識と考え方を概ね修得している。

C：コミュニケーションの基本的な知識と考え方を最低限修得している。

D：コミュニケーションの基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

毎回の授業でのミニレポート（70%）と、グループワークへの積極的参加や受講態度（30%）により評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	人間関係づくりトレーニング
著者名	星野欣生著
出版社	金子書房
出版年	2003
ISBN	978-4760830251
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB5202	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	健康の科学				
担当教員（ローマ字表記）	正保 春彦				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

人間関係と自己理解の心理学

授業の概要/Course Overview

この授業では、他の受講生とかわりながら自分自身について理解を深める。具体的には受講生相互で構成的グループ・エンカウンターを中心としたグループワークを行い、そこでの体験をベースに自分自身について心理学的に理解を深める。毎回の授業は体験を元に心理学的な背景について解説を行い、経験と理論の接続を試みる。

キーワード/Keyword(s)

グループ・アプローチ、構成的グループ・エンカウンター、SGE、自己理解、グループワーク・トレーニング、GWT、コミュニケーション、協力と責任

到達目標/Learning Objectives

- ①他者と適切にかかわることができる。
- ②自分自身に関して心理学的に理解を深める。
- ③自分自身の人物像について具体的に記述することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入
（講義）この授業の進め方
（グループワーク）他者とのかわり。コミュニケーション。

第2回：他者理解
（講義）対人認知・対人印象について解説する。
（グループワーク）相互に自己開示を行う。

第3回：自己理解
（講義）パーソナリティ理論について解説する。
（グループワーク）他者理解に基づく自己理解。

第4回：協力と責任
（講義）相互に協力しつつ責任を果たし、問題を解決することについて解説する。
（グループワーク）協力と責任の遂行によって問題解決をする。

第5回：感受性と共感性
（講義）他者に配慮することと共感的理解との関係について解説する。
（グループワーク）他者に配慮することによって課題を達成する。

第6回：自己主張
（講義）他者に配慮しながら、自分の要求を他者に表明することについて解説する。
（グループワーク）。他者に配慮しつつ、自己を主張する。

第7回：自己受容

(講義)。ありのままの自分を受け入れることと自己実現について解説する(グループワーク)。他者とかかわりながら、ありのままの自分を受け入れる。

第8回：まとめ

(講義) 他者とかかわりの中で形成される人間像について解説する。(グループワーク) 受講生全員で相互にかかわりながら授業を振り返る。

【授業外学修】

(1) 各授業では毎回受講生が参加する実習を行う。実習の手順や内容については授業後に各自で整理し、自分の体験を振り返っておくこと。

(2) 各授業回で取り扱う内容については、参考書『心を育てるグループワーク』により、確認しておくことが望ましい。

履修上の注意/Notes

- 1) グループワーク等に積極的に参加すること。遅刻しないこと。
- 2) 自分と異なる他者の意見や行動を受け止める努力をすること。
- 3) オフィスアワー木曜日2講時(要予約), 教育学部E301
mail:haruhiko.shobo.prof@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 人間関係と自己理解に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 人間関係と自己理解に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 人間関係と自己理解に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 人間関係と自己理解に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 人間関係と自己理解に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

到達目標①②に基づいて③について毎回の授業でショートレポート(50%)を提出し、加えて、最後に自分自身の自己像についてのレポートを提出し(50%)、評価する。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、資料プリントを適宜配付する。
----	------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	心を育てるグループワーク：楽しく学べる72のワーク
著者名	正保春彦 著
出版社	金子書房
出版年	2019
ISBN	978-4760824199

教材費	2600
-----	------

参考書2

書名	エンカウンター：心とこころのふれあい
著者名	国分 康孝／著
出版社	誠信書房
出版年	1986
ISBN	978-4414403091
教材費	2000

参考書3

書名	学校グループワーク・トレーニング
著者名	坂野公信 監修
出版社	図書文化社
出版年	2016
ISBN	978-4810066746
教材費	2800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

高校講師、公認心理師、臨床心理士

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB5203	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	健康の科学				
担当教員（ローマ字表記）	金丸 隆太				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

人生をラクにするメンタルヘルス学

授業の概要/Course Overview

生きるということはストレスとの戦いでもあります。人間関係をはじめ、様々なストレスに苦しみながら生きる中で、心の病にかかることもあります。8回の授業を通し、ストレスを減らす方法、ストレスに負けない方法、そして最終的には、ストレスと戦わずに生きる方法について学びます。

キーワード/Keyword(s)

メンタルヘルス, ストレス, カウンセリング, 人生

到達目標/Learning Objectives

- ・人とのやりとりの中で心の健康を悪化させない方法を知る。
- ・社会を構成するひとりひとりの生き方を尊重し傷つけ合わない姿勢を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：オリエンテーション 自分を知る
（ライティング）自分のパーソナリティとストレスの関係を知る。
- 第2回：心と体の関係
（ライティング）様々な理論による心の仕組みを学びメンタルヘルスの基本を知る。
- 第3回：大学生としてのストレス場面
（ライティング）大学生はどのようなストレス場面に会い、どう対処すれば良いかを学ぶ。
- 第4回：社会人としてのストレス場面
（ライティング）社会人はどのようなストレス場面に会い、どう対処すれば良いかを学ぶ。
- 第5回：家庭人としてのストレス場面
（ライティング）家庭の中ではどのようなストレス場面に会い、どう対処すれば良いかを学ぶ。
- 第6回：様々な心理療法とメンタルヘルス
（ライティング）代表的な心理療法の理論を知り、セルフヘルプに活かす。
- 第7回：交流分析
（ライティング）交流分析理論を用いて自己分析を行う。
- 第8回：まとめ ラクに生きる
（ディスカッション）適度な対人関係を維持し心の争いに発展しない生き方を再考する。

【授業外学修】

- （1）講義資料は教務情報ポータルシステムにアップする。
- （2）授業で興味を持ったキーワードについて、インターネットで検索し知識を増やす。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 毎回授業でアンケート等に入力した内容を受講生で共有し、他者からも学ぶ。

履修上の注意/Notes

自分の意見を他者と共有すること。つまり、自分の考えを話すだけでなく、他者の意見を聴くこと。メールアドレス ryuta.kanemaru.rk@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

資料の配付、授業中のアンケート入力など、毎回教務情報ポータルシステムを用いるので、スマートフォン、PC、タブレット等の情報端末を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ :メンタルヘルスの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A :メンタルヘルスの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B :メンタルヘルスの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C :メンタルヘルスの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D :メンタルヘルスの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

毎回授業で課する課題（アンケート入力等）への取り組み：70点/最終回に教場で実施する課題：30点

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はない。資料は教務情報ポータルシステムから配付する。
----	-------------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

・公認心理師と臨床心理士の資格を有し、カウンセラーとしての経験をもつ教員の指導のもと、セルフヘルプの演習を行う。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB5204	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	
開講曜日・時限	金1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T (情報・物質・都市)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	健康の科学				
担当教員 (ローマ字表記)	矢嶋 敬紘				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

心の健康科学

授業の概要/Course Overview

この授業では心の健康について講義及び演習形式で学ぶことにより、大学生活等を健康に過ごせるようになるための実践能力を修得することを目的とする。心理学諸領域に関する概論を学ぶことにより、人間の意識や行動について、基本的な人間行動の法則性を基に考え、自己理解・他者理解を深めるとともに、心の健康に関わる科学的思考力を高める。

キーワード/Keyword(s)

自己理解、他者理解、心の健康、ストレス、発達

到達目標/Learning Objectives

- (1)心の健康科学の基礎的なことがらを理解できる。
- (2)現在および将来にわたって健康的なライフスタイルを実践する基礎を修得する。
- (3)心の健康に関わる現代社会の問題について説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入、ストレス理論

(講義) この授業の進め方、ストレス理論について学ぶ。

(グループワーク) ストレスと、自己と他者への信頼をテーマにグループワークを行う。

第2回：心の健康・心理療法(1)

(講義) 心の健康とは何か、不健康状態との対比などから理解する。各種心理療法を学ぶことによって、心の健康を回復・維持する要因を理解する。

(グループワーク) 心の健康の増進をテーマにグループワークを行う。

第3回：心の健康・心理療法(2)

(講義) 心の健康とは何か、不健康状態との対比などから理解する。各種心理療法を学ぶことによって、心の健康を回復・維持する要因を理解する。

(グループワーク) 心の健康の増進をテーマにグループワークを行う。

第4回：社会心理学

(講義) 人と人との集まりである社会における人間行動を理解する。

(グループワーク) 集団と自己をテーマにグループワークを行う。

第5回：パーソナリティ、疾病・障害

(講義) 性格や知能など、人間の広義の行動に一貫性を与えるものについて講義する。また、疾病や障害について正しく理解する。

(グループワーク) パーソナリティをテーマにグループワークを行う。

第6回：記憶のメカニズム

(講義) 記憶の過程や構造について理解する。

(グループワーク) 自己理解をテーマにグループワークを行う。

第7回：動機づけ理論

(講義) 人はどのような要因によって動機づけられ行動しているか講義する。

(グループワーク) 動機づけをテーマにグループワークを行う。

第8回：発達心理学

(講義) 精神発達の諸側面(認知、思考、感情、社会性等)における発達理論を理解する(45分)。

(期末試験) 筆記試験を実施する(45分)。

【授業外学修】

この授業ではプリントを配付し説明した上で、グループワークにより実際に様々な体験を行い、内容の理解を深めるとともに、心の健康に関わるの諸課題を討議する。この講義とグループワークの内容をもとに小テストを実施するため、自宅学習では、配られたプリントや板書などをもとに復習すること。

履修上の注意/Notes

(1)グループワーク等に積極的に参加すること。

(2)自分と異なる他者の意見や行動を受け止める努力をすること。

(3)ディスカッション・学生の発表-有り、軽微な運動-有り、使用する視聴覚教材の種類-配付プリント・パワーポイント等プロジェクター投影・黒板・ビデオ映像。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：心の健康に関わる基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：心の健康に関わる基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：心の健康に関わる基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：心の健康に関わる基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：心の健康に関わる基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

到達目標(1)(2)(3)について、期末試験(50%)、各授業での小テスト及び課題(50%)により評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、資料プリントを配付する。
----	----------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

臨床心理士の資格を有し、カウンセラーとしての経験をもつ教員の指導のもと、心の健康に関わる理解を深める講義をする。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB5205	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T (機械システム・電気電子システム)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	健康の科学				
担当教員 (ローマ字表記)	青柳 直子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

ライフスタイルと健康

授業の概要/Course Overview

近年のライフスタイルや社会環境の急速な変化は人々の心身の健康に大きく影響を及ぼしている。現代における健康観の変化をふまえて、ヘルスプロモーション、保健医療行政、健康行動、行動変容モデルなどに関する基礎理論や実践事例について、行動科学および健康教育学的側面より学習する。

キーワード/Keyword(s)

健康観、ヘルスプロモーション、メンタルヘルス、健康行動、行動変容モデル、健康格差、ヘルスリテラシー

到達目標/Learning Objectives

現代社会における「健康」を取り巻く現状と課題について、各種データや調査資料に基づき、多角的に理解し、説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

シラバスを用いたガイダンス、健康に関する現状と課題

【授業外学修】

過去に履修した教科「保健体育」の内容に関して、教科書やノート、関連資料などにより確認しておくこと。

【授業内容】

- 1) 健康の概念
- 2) ライフスタイルと疾病構造の変化
(ミニツツペーパー) 提示された視点について考え、意見をまとめる。

【授業外学修】

本時の授業内容の復習と次時の予習を配付資料により行っておくこと。

【授業内容】

- 1) ヘルスプロモーションの概念
- 2) 健康格差に関する現状と課題
(ミニツツペーパー) 提示された視点について考え、意見をまとめる。

【授業外学修】

本時の授業内容の復習と次時の予習を配付資料により行っておくこと。

【授業内容】

- 1) 行動科学理論
- 2) 健康行動の評価
(ミニツツペーパー) 提示された視点について考え、意見をまとめる。

【授業外学修】

本時の授業内容の復習と次時の予習を配付資料により行っておくこと。

【授業内容】

行動変容モデルの理論と実践事例：減量指導プログラム

(ライティング・ディスカッション) 各理論をもとに立案したプログラムについて、「書く」ことで意見交換を繰り返す。

【授業外学修】

本時の授業内容の復習と次時の予習を配付資料により行っておくこと。

【授業内容】

メンタルヘルスに関する現状と課題

(ミニッツペーパー) 提示された視点について考え、意見をまとめる。

【授業外学修】

本時の授業内容の復習と次時の予習を配付資料により行っておくこと。

【授業内容】

保健医療行政の仕組みに関する現状と課題

(ミニッツペーパー) 提示された視点について考え、意見をまとめる。

【授業外学修】

試験出題範囲の内容について、配付資料や関連書籍などで確認しておくこと。

【授業内容】

内容のまとめ(講義 45分)、試験

履修上の注意/Notes

・原則として30分を経過した場合は遅刻とする。遅刻2回で1回分の欠席の取扱いとする。

情報端末の活用

当該授業内で情報端末は利用しない。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 健康科学領域における基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその応用・展開について説明できている。
- A : 健康科学領域における基本的な知識と考え方を修得し、さらにその応用・展開について説明できている。
- B : 健康科学領域における基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその応用・展開について説明できている。
- C : 健康科学領域における基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその応用・展開について説明できている。
- D : 健康科学領域における基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその応用・展開について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

・期末試験：65点/小レポート：35点(各5点×7回)

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。関連資料を毎回配付する。
----	-----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	新・生き方としての健康科学
著者名	山崎喜比古・朝倉隆司(編)
出版社	有信堂高文社

出版年	2017
ISBN	978-4842065892
教材費	3132

参考書2

書名	行動科学 –健康づくりのための理論と応用– 改訂第2版
著者名	畑 栄一・土井由利子（編）
出版社	南江堂
出版年	2009
ISBN	978-4524253111
教材費	2160

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB5251	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	健康の科学				
担当教員（ローマ字表記）	古池 雄治				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

病と健康

授業の概要/Course Overview

病と健康とは相反するものである。病とは何であるか、人々にどのような影響を与えるのか。この授業では、病を考察することで健康であることの意義を見出し、健康であるための方策を考える。第1回は身近にある病に関する考察を「ライティング・ディスカッション」型で行う。第2～5回は身体と心の病についての講義を行う。第6、7回は健康に関する課題をグループで考察する。病と健康についての考察を第8回でまとめる。

キーワード/Keyword(s)

病気、患者、医療、少子化、高齢化、健康

到達目標/Learning Objectives

病気と健康の基礎的な事柄を理解できる。
患者となる人々の心情を理解できる。
健康であるための、自分なりの考えを持つことができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス 病とは
（ライティング・ディスカッション）身近にある病を具体的にとりあげ、その及ぼす影響について「書く」ことで意見交換を繰り返す。
【授業外学修】参考書および新聞などから病気に関する情報・知識を収集しておく。

第2回：【授業内容】身体の病と心の病 講義
【授業外学修】授業で取り上げる内容について、特に興味ある分野を参考書などで復習と次回の予習を行っておく。

第3回：【授業内容】病の原因と心身の変化 講義
【授業外学修】授業で取り上げる内容について、特に興味ある分野を参考書などで復習と次回の予習を行っておく。

第4回：【授業内容】治療 講義
【授業外学修】授業で取り上げる内容について、特に興味ある分野を参考書などで復習と次回の予習を行っておく。

第5回：【授業内容】少子化と高齢化 講義
【授業外学修】授業で取り上げる内容について、特に興味ある分野を参考書などで復習と次回の予習を行っておく。

第6回：【授業内容】健康 その1 課題考察「高齢者医療の是非」
（グループディスカッション：ラウンドロビン）グループに分かれて課題（高齢者の医療にお金をかけるべきか）を考察する。
【授業外学修】第1回から5回までの講義内容を復習し、ディスカッションのための準備をしておく。

第7回：【授業内容】健康 その2 課題考察「少子化対策」
（グループディスカッション：ラウンドロビン）グループに分かれて課題（少子化への対策）を考察する。
【授業外学修】第1回から5回までの講義内容を復習し、ディスカッションのための準備をしておく。

第8回：【授業内容】まとめ 病と健康について再考

【授業外学修】これまでの授業内容の総復習を行い、病と健康について再考しレポートが作成できるよう準備しておく。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1回については、自身のこれまでの体験について発表を行う。
- (2) 第6、7回については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、グループ・ディスカッション、発表を行う。

履修上の注意/Notes

- (1) ディスカッションには積極的、能動的に参加すること。(2) 自分の考えを持ち、自分とは異なる考えを受け止めるよう努力する。
- (3) 極力遅刻は避けること。(4) オフィースアワー：水曜日12～13時、メールアドレスyuji.koike.md@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

第8回目でアンケートを実施する予定のため、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：病と健康の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：病と健康の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：病と健康の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：病と健康の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：病と健康の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

第8回目の授業中に作成するレポートによる。評価の観点には三つの到達目標であり、目標への接近度をレポートの記述から評価する。期末試験は実施しない。授業中の課題考察は成績評価に影響しない。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	心と体の健康・スポーツ
著者名	茨城大学心と体の研究会
出版社	大修館書店
出版年	2019
ISBN	978-4-469-26856
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	○

コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

医師の資格有し、大学病院や地域の中核病院で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、病と健康についての講義を行う。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB5252	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	健康の科学				
担当教員（ローマ字表記）	渡邊 雅彦				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

脳・神経・骨格筋の科学

授業の概要/Course Overview

脳・神経・筋肉の構造・機能そしてその障害である疾患について、分かりやすく解説する。初回の授業で6つのテーマについてfree discussionをする。日々の生活のすぐそばに存在する問題に関連していることがわかる。また、日頃何気なく語られる自覚症状がどのように招来するのか科学的に分析できるようになる。

キーワード/Keyword(s)

大脳、小脳、大脳基底核、末梢神経、骨格筋、神経筋接合部、頭痛

到達目標/Learning Objectives

①日常よく目にする症状を科学的に分析し、理解できる/②医学的素養が体育学、養護学、健康管理学などの学力を飛躍的に高める/③free discussionを通じて、コミュニケーション能力が高められる/④地域社会における健康増進プログラムを発信できる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス。授業の進め方の説明、資料の配布

6つのテーマについて1) 知っていること、考えたことを5分でまとめて、整理してBrief Report of the Day(BRD)に記述する、2) 自由討論の場で積極的に発信し、聴き、議論する、3) 自由討論を通じて学んだこと、考えたこと、より深く調べてみたくなったことをBRDに記述する。

第2回：ふらつきと小脳（メモは配布資料に直接書き込む、授業中にこれを完成し、最後に提出する。BRDには氏名と学生番号を記入してもらう。BRDは評価の大部分を占める。自ら考え、整理し、論理的に記述する。授業資料は参照してよいが、他者のレポートを剽窃することは許されない。自己学習した跡がみられるレポートは当然のことながら高く評価されるが、材料を教室に持ち込むことは許されない。諸君の頭脳の中に格納して持ち込んでほしい。）

第3回：ふるえと大脳基底核（講義+BRD）

第4回：物忘れと大脳（講義+BRD）

第5回：しびれと末梢神経（講義+BRD）

第6回：脱力と骨格筋（講義+BRD）

第7回：頭痛（講義+BRD）

第8回：まとめ、質問、終講試験、終講アンケート（これも必ず提出すること）

【授業外学修】

予習：スライドハンドアウトをその前の回の授業の時に渡しておくので、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。自己学習した内容はBrief Report of the Dayの中に自分自身の言葉で記述できるよう、整理整頓してきてほしい。

復習：終講試験は記述式なので、各テーマについて、正しい用語で論理的に記述できるよう復習するとともに、さらに自己学習を進めてほしい。

履修上の注意/Notes

「正確な用語で、論理的に書ける（記述できる）」水準が求められるので、予習・復習は必須である。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：脳・神経・骨格筋の科学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：脳・神経・骨格筋の科学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：脳・神経・骨格筋の科学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：脳・神経・骨格筋の科学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：脳・神経・骨格筋の科学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

Brief Report of the Day：試験 = 7：3

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	標準神経学
著者名	水野美邦
出版社	医学書院
出版年	2012
ISBN	978-4-260-00601-
教材費	7560

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB5253	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	健康の科学				
担当教員（ローマ字表記）	石原 研治				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

アレルギーを知ろう

授業の概要/Course Overview

よく耳にする気管支喘息、アトピー性皮膚炎あるいは花粉症といった病気はアレルギーの一種です。アレルギーは豊かになった現代の病気と言われ、日本人の3人に1人が罹患しています。アレルギーは生まれたばかりの乳幼児で発症したり、小中学生のいじめの原因にもなったりします。本講義ではアレルギーの基礎を紹介し、アレルギーの理解を深めてもらいたいと思います。特に、学校での配慮について教科書を用いて解説します。

キーワード/Keyword(s)

アレルギー 気管支喘息 アトピー性皮膚炎 花粉症 アレルギー性鼻炎 アレルギー性結膜炎 食物アレルギー アナフィラキシー

到達目標/Learning Objectives

- ・アレルギーの全体像を理解できる。
- ・気管支ぜん息やアトピー性皮膚炎など各疾患を理解できる。
- ・罹患にはどんな苦痛があるのか理解できる。
- ・社会の中でアレルギー疾患を持つ人たちとどのように接することがよいのか考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス
- 第2回：【授業内容】アレルギー疾患（総論）【ミニッツペーパーにより授業終了時にコメントを記載】
【授業外学修】教科書 p.3-17 を読んでおくこと。教科書・配付資料・ノートなどを確認し復習すること。
- 第3回：【授業内容】アレルギー疾患（気管支喘息）【ミニッツペーパーにより授業終了時にコメントを記載】
【授業外学修】教科書 p.21-36 を読んでおくこと。教科書・配付資料・ノートなどを確認し復習すること。
- 第4回：【授業内容】アレルギー疾患（アトピー性皮膚炎）【ミニッツペーパーにより授業終了時にコメントを記載】
【授業外学修】教科書 p.37-49 を読んでおくこと。教科書・配付資料・ノートなどを確認し復習すること。
- 第5回：【授業内容】アレルギー疾患（食物アレルギー・アナフィラキシー）【ミニッツペーパーにより授業終了時にコメントを記載】
【授業外学修】教科書 p.59-79 を読んでおくこと。教科書・配付資料・ノートなどを確認し復習すること。
- 第6回：【授業内容】アレルギー疾患（アレルギー性結膜炎）【ミニッツペーパーにより授業終了時にコメントを記載】
【授業外学修】教科書 p.51-57 を読んでおくこと。教科書・配付資料・ノートなどを確認し復習すること。
- 第7回：【授業内容】アレルギー疾患（アレルギー性鼻炎）【ミニッツペーパーにより授業終了時にコメントを記載】
【授業外学修】教科書 p.81-85 を読んでおくこと。教科書・配付資料・ノートなどを確認し復習すること。
- 第8回：【授業内容】まとめ（45分）、試験（45分）
【授業外学修】期末試験出題範囲の内容について、テキスト、レジュメなどで確認しておくこと。

履修上の注意/Notes

30 分以内であれば遅刻は認めます。教科書の購入以外の費用はかかりません。
オフィスアワーは水曜日 2 講時。

情報端末の活用

授業内で P C は使用しない。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	アレルギー基本的な知識と考え方を十分に修得している。
A : 80点以上90点未満	アレルギー基本的な知識と考え方を修得している。
B : 70点以上80点未満	アレルギー基本的な知識と考え方を概ね修得している。
C : 60点以上70点未満	アレルギー基本的な知識と考え方について最低限の修得をしている。
D : 60点未満	アレルギー基本的な知識と考え方を修得できていない。

成績の評価方法/Grading

8 回目に筆記試験を実施します。
ミニツツペーパー 30 点(各 5 点 x 6 回) および期末試験 70 点で評価します。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン
著者名	
出版社	学校保健会
出版年	
ISBN	
教材費	1650

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

大学教員としてアレルギーの基礎研究を行ってきた経験を活かして解説する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB5254	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T (情報・物質・都市)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	健康の科学				
担当教員 (ローマ字表記)	地井 和也				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

表現行動と心の健康

授業の概要/Course Overview

人の心の健康において、他者との相互交流による言語的表現および非言語的表現がいかに関係し、影響を及ぼすかについて、講義、ロールプレイ、グループディスカッション等をもとに体験的に学習する。全8回の授業を通して、自分の心の健康状態の把握と改善の方法について理解を深める。

キーワード/Keyword(s)

臨床心理学、メンタルヘルス、表現、イメージ、コミュニケーション

到達目標/Learning Objectives

人の心の健康状態の把握とその向上に関する臨床心理学の基本的知識を獲得し、自分の心の健康状態について理解し改善を図るための行動をとることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、心の健康とは、グループディスカッション
 第2回：心の健康状態を知るために、グループディスカッション
 第3回：表現行動と心の健康、グループディスカッション
 第4回：言葉による表現、ロールプレイ、グループディスカッション
 第5回：イメージの表現（1）描画、ロールプレイ、グループディスカッション
 第6回：イメージの表現（2）箱庭、グループディスカッション
 第7回：イメージの表現（3）音楽・身体、グループディスカッション
 第8回：まとめ 表現行動による心の変化、グループディスカッション

【授業外学修】

- （1）日常生活において、自分の心はどのような健康状態にあるか、それをどのような手掛かりから感じ取っているか、どのような活動で変化が生じるかについて内省を深める。
- （2）授業で行ったワークや配布資料を振り返る。
- （3）授業で行ったワークを実践し、心の状態の変化を感じ取る。

履修上の注意/Notes

ペアやグループになったのワークを行うため、できる限り遅刻しないこと。遅刻によりワークに参加できなかった場合、欠席扱いとすることがある。

情報端末の活用

授業内ではP Cは使用しない。

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 心の健康、および心の健康に寄与する表現活動に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、それを自身の心の健康状態の把握と向上に十分に役立て、応用することができる。

A : 心の健康、および心の健康に寄与する表現活動に関する基本的な知識と考え方を修得し、それを自身の心の健康状態の把握と向上に役立てることができる。

B : 心の健康、および心の健康に寄与する表現活動に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、それを自身の心の健康状態の把握と向上に役立てることができる。

C : 心の健康、および心の健康に寄与する表現活動に関する基本的な知識と考え方を最低限修得し、それを自身の心の健康状態の把握と向上に役立てることができる。

D : 心の健康、および心の健康に寄与する表現活動に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、それを自身の心の健康状態の把握と向上に役立てることができていない。

成績の評価方法/Grading

各回に課す小レポート：50%/期末レポート：50%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はない。適宜資料を配布する。
----	-------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

臨床心理士・公認心理師の資格を有し、カウンセラーとしての経験をもつ教員の指導のもと、 心理査定の実習を含む心の健康に関する講義を行う。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB5256	ナンバリング	KB-SFH-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T (機械システム・電気電子システム)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	健康の科学				
担当教員 (ローマ字表記)	布施 泰子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

精神の科学

授業の概要/Course Overview

精神について、生物学的側面と精神分析的側面からの情報提供を行う。
 青年期に起こりやすい精神の不調について基本的な知識を提供する。
 自殺の一次予防教育を行う。

キーワード/Keyword(s)

精神、生物学的、力動的、精神分析、依存、適応障害、摂食障害、自殺予防

到達目標/Learning Objectives

- ・精神のはたらきについて、生物学的視点と力動的（精神分析的）視点のそれぞれから、基本的な知識と理解を得る。
- ・青年期におこりやすい精神の不調について学び、精神の健康管理についての知識や基本的技術を身につける。
- ・自殺予防について基本的な知識や、共感能力等を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンス

第2回：精神を生物学的な視点から理解する

[ミニッツペーパー：授業で理解したことや考えたことについて書く]

第3回：精神を力動的な視点から理解する－総論：無意識とは、精神分析とは－

[ミニッツペーパー]

第4回：精神を力動的な視点から理解する－各論：夢の分析、神経症のメカニズム－

[ミニッツペーパー]

第5回：依存のメカニズムを知る（アルコール、薬物、インターネット）

[復習テスト]

第6回：青年期におこりやすい精神の不調：適応障害、摂食障害、うつ病など

[復習テスト]

第7回：自殺予防について

[アンケート]

第8回：自殺予防について

[アンケート]

【授業外学修】

講義のテーマに関連したことを調べ、自分なりの問題意識を持って授業に臨むとよい。授業に出て興味を持った部分について、学習を広げること。疑問点はまとめて次回質問できる用意をしておくこと。なお、本や学術雑誌とちがって、インターネット上の健康に関する情報は玉石

混交である。情報の質や正確さも見極められるようになることは、社会に出てからもたいへん有益であると考える。

履修上の注意/Notes

第7回と第8回の「自殺予防について」は、公開授業となる可能性がある。

情報端末の活用

授業内ではPCを使用しない

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：講義内容の基本的な知識と考え方を十分に修得できている。
- A：講義内容の基本的な知識と考え方を修得できている。
- B：講義内容の基本的な知識と考え方を概ね修得できている。
- C：講義内容の基本的な知識と考え方について最低限修得できている。
- D：講義内容の基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

ミニツツペーパー(70%)と復習テスト(30%)にて評価する。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	新版学生と健康
著者名	国立大学法人保健管理施設協議会編
出版社	南江堂
出版年	
ISBN	
教材費	2000

参考書2

書名	精神分析入門（上）
著者名	フロイト
出版社	新潮文庫
出版年	
ISBN	
教材費	810

参考書3

書名	精神分析入門（下）
----	-----------

著者名	フロイト
出版社	新潮文庫
出版年	
ISBN	
教材費	810

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--